

会報紙

あんしん地域見守りネット ニュースレター「第6号」

謹賀新年

地域活動を育む

かけはし

発行：一般社団法人 あんしん地域見守りネット

発行：地域連携チーム(代表 谷口 起代)
編集長：倉田 久
ライター：斎藤 正史

事務局：地域活性化センター松戸 (運営：NPO法人 CoCoT)
〒271-0073 松戸市小根本 42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL. 047-711-7445 FAX. 047-369-7445

～一般社団法人 Y S 市庭コミュニティ財団助成事業～
協賛：(公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団

ほっとラインNOW

Aさんは市営住宅を申し込みに行った市役所8階住宅政策課からご紹介されて、居住支援相談窓口へ来訪されました。身体もご不自由な上に、現住居で近隣住民との耐え難いストレスとトラブルを抱えてご苦労されておりました。緊急連絡先は遠方の親族であり、保証人もいない。けれども、Aさんにはすでにお金の把握は行政、生活の把握は施設のアマネージャーが付いていました。支援の基盤が整っていることがわかり、Aさんの居住支援をお引き受けすることになりました。

物件探しは超繁忙期と重なり思うようなお部屋が見つかりません。Aさんは自分でも物件探しに動き出し、そこで紹介されたお部屋に即契約、入金も済ませてしまいました。無事に転居先が決まってよかったと思っていた矢先アマネージャーからAさんが一方的に契約を破棄したとの連絡を受けます。理由は、新居の環境が思っていたものと違っていたこと。自己都合のためお金はほとんど戻ってきません。せっかく貯めたお金も使い果たし、転居先も失い、Aさんはまたトラブルを抱える現住居での生活を余儀なくされました。実は、ここからが真の居住支援の始まりになるのです。(木村)

あねっとピックス

松戸市明第二西地区 高齢者支援連絡会主催研修会報告

小山 淳子

2022年6月16日、古ヶ崎市民センターにおいて、明第二西地区高齢者支援連絡会主催「コミュニティ型地域見守り電話『げんきです』を活用して構築するセーフティネット作り」をテーマに研修会が開催されました。2022年10月から本格稼働するあんしんプレミアムサービス「げんきです」のシステムと体制について、詳細説明を行いました。



親御さんが一人で自宅にいる方や、失業や病氣などで一人暮らしに不安を持

地域共生が謳われる時代の「暮らしの中の心理支援」を考える

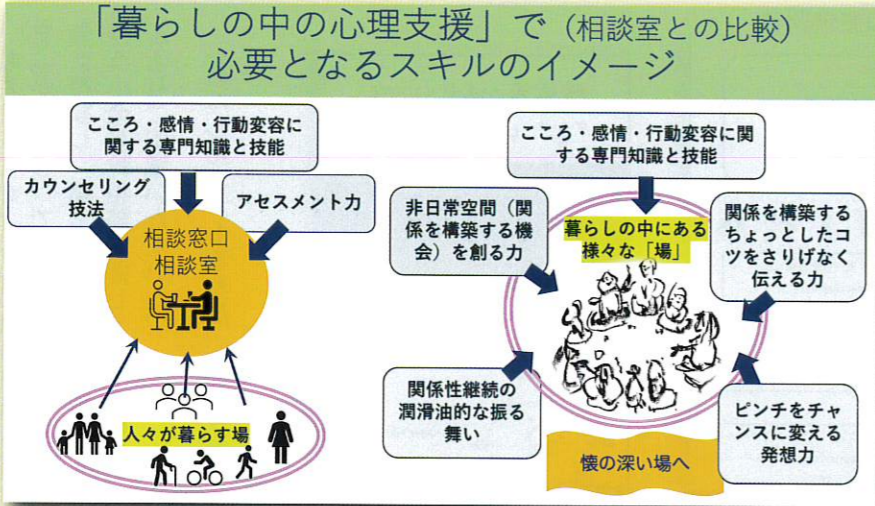
地域連携チーム代表 谷口 起代

2015年に公認心理師法が成立し、2018年に第1回公認心理師試験が実施された。諸外国から遙かに遅れていた心理職の国家資格が、わが国でも誕生した。2022年9月末時点の公認心理師登録者数は57,645人となった。このたび縁あって、公認心理師の国家試験の受験を目指す現任者を対象とした講習会の運営に携わり、「家族・集団・地域社会における心理支援」等の講師をするという機会に恵まれ、公認心理師のキャリアラムをつぶさにみるようになった。そこで、講習会を運営し講義しながら感じたこと考えたことを、実践と研究の双方からコミュニティづくりに関わってきたなかでかたから持っていた問題意識に絡めてまとめてみたい。

これまでも心理職の民間資格は数多く存在していたが、それらは主に特定の分野に(たとえば学校では臨床心理士というように)限定される傾向があった。それに比べ公認心理師は、医療・保健、福祉、教育、司法・矯正、産業など幅広い範囲で活動することを想定

っている方など、見守りが必要な方はだれでも申し込めます。二日続けて応答がない場合、ご近所見守りや緊急連絡先の方にメールで連絡が行くサービスも始まります。地域見守りが高齢社会において重要な事業であることから、継続していくために、「げんきです」の有料化に踏み切りました。利用料金の設定は、利潤を追求する民間企業とは異なり、実費のみで、人件費や運営費については、支援者の方のご協力をお願いしています。初期登録費用(初年度のみ)2000円(税込)2200円、固定電話650円/月額(税込)715円、携帯電話750円/月額(税込)825円)です。

明第二西地区では、この新しい仕組みを導入して、地域見守りの体制の構築が始まります。導入の特徴は、ご近所見守りが見守りを引き受ける仕組みがあることです。また、65歳以上の方の加入を推進していくために、初期登録料2200円を高齢者支援連絡会が負担するという補助制度も作りました。今回の研修会では、「げんきです」の導入を手始めに、様々な見守り体制に取り組んで行くことに、合意されました。素晴らしい実践的な第一歩です。この活動が松戸市全域に広がっていくことを期待しています。



した資格となっており、今後、広範囲の領域に心理職の配置が推し進められていくことが予想される。コミュニティづくりでは、今、合言葉は地域共生、自助・共助。つまり、

支え合い、助け合いによって、様々な生活課題を抱えた人と共に生きていくような関係づくりが必要になってくる。この流れの中で、高齢者、子育て中の者、障害を持つ者などが気兼ねな

会員募集のご案内

「(一社)あんしん地域見守りネット」の目的に賛同していただける方、活動に参加していただける方、応援していただける方、お待ちしております。

正会員(団体) 5,000円(1口以上)/年
正会員(個人) 2,000円(1口以上)/年

振込口座： 千葉銀行松戸支店(普) 4277609
口座名義： 一般社団法人 あんしん地域見守りネット

@anshindenwa 「あんしん電話」
E-mail: info@genkiosiete.com
http://anshind.kaiteki-it.or.jp/

編集後記

先日、谷中の商店街を散策しました。昭和を思わせるレトロな街並みと人気がポットになり、観光客も大勢訪れていました。新鮮に感じたのは、地域住民が店先で店主と会話し道端での立ち話も多く見られたこと。高齢者が孤立しないようなインフラが整っているように思えました。コンビニ、スーパーがメインの街では難しいと思われがちです。取材を通じて、様々な主体が高齢者や弱者への支援に取組んでいることを知り、それらの横のつながり、情報共有の場の形成に「かけはし」が役立てればと思います。

く集える場や、地域住民が共に食卓を囲むようなインフォーマルな場が市民によって数多く生まれてきた。そこで家族のような付き合いに発展することもあり、その場が日々の暮らしの安心を提供するとともに、何かがあった時のこころの拠り所になっていたりする。実際に、困った時に助けられる、助けるといふ関係にも発展し、「この場があったことで救われた」「なかったら乗り越えられなかった」ということも起きている。

しかし同時に難しさもある。「誰も排除しない」という深い思いの元に開かれたオープンな場が、問題行動を繰り返す人の対応に追われ閉鎖的になっていく、主催者が疲弊し心身のバランスを壊す、危機介入に繋がらない、後継者がいない・・・等、さまざまな場において共通した困難を見聞きしてきた。こんな時、もし、心理の専門家が、つまり、こころや感情、行動変容に関する専門知識と援助技術を持つ者が、普段からそのような場にさりげなく顔を出し関係にあつて、何食わぬ顔でその場に混ざり、そして必要な時にだけ適切にさりりと主催者にアドバイスできるようなしくみがあったなら、事態はこうもこじれることはなかったのではなにかと思うことがしばしばあった。

「あつたらいいな」と理想を描くことは簡単だ。しかし、実現するには長い道

